



2025年2月10日

各 位

会 社 名 ビーピー・カストロール株式会社
代表者の役職名 代表取締役社長 平川 雅規
(コード番号 5015 スタンダード市場)
問い合わせ先 取締役財務経理部長 田中 正子
T E L 03-5719-7830

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について改めて現状分析と評価を行うとともに、今後の具体的な取り組みについて決議いたしましたのでお知らせいたします。詳細につきましては別紙資料をご覧ください。

なお、本件は当社が持続的な成長を目指すために策定し現在進行中の中期経営計画（2022-2026）に追加し、取り組みを推進してまいります。

以上

資本コストと株価を意識した経営

ビーピー・カストロール株式会社



資本コストと株価を意識した経営について

1. 経営方針と資本コストの位置づけ

当社は、株主価値の最大化を目指す経営方針のもと、資本コストを収益性評価の重要な判断基準の一つとして位置づけており、資本効率を向上させるため、事業運営や投資の意思決定において、資本コストを上回る収益性を確保することを重視しています。

2. 株価と資本コストの関係

当社は、資本市場からの評価を常に意識し、適切な株価形成を目指しています。株価は当社の長期的な事業成果の指標であり、資本コストを上回る利益を持続的に創出することが、企業価値の向上と株主還元につながると認識しています。

3. 資本コストの算定方法

当社では、資本コストをCAPM(資本資産価格モデル)を用いて算出しています。
市場リスクプレミアムやリスクフリーレートを基準とし、株主の期待リターンを推定しています。

4. 資本コストを考慮した事業運営

新規投資や事業拡大の際、資本コストを超えるリターンを見込めるか否かを重要な判断基準の一つとしています。特に以下の点に注力しています。

- 資本配分の最適化：事業のリスクとリターンを精査し、資本を効率的に配分。
- 資産効率の向上：不要資産の売却や効率的な資本活用を通じて、資産効率を改善。

5. 株主還元の方針

当社は、株主還元を積極的に行うとの観点から、フリー・キャッシュ・フローを基本とし税引後利益を目安に配当として株主に還元することを基本方針としています。

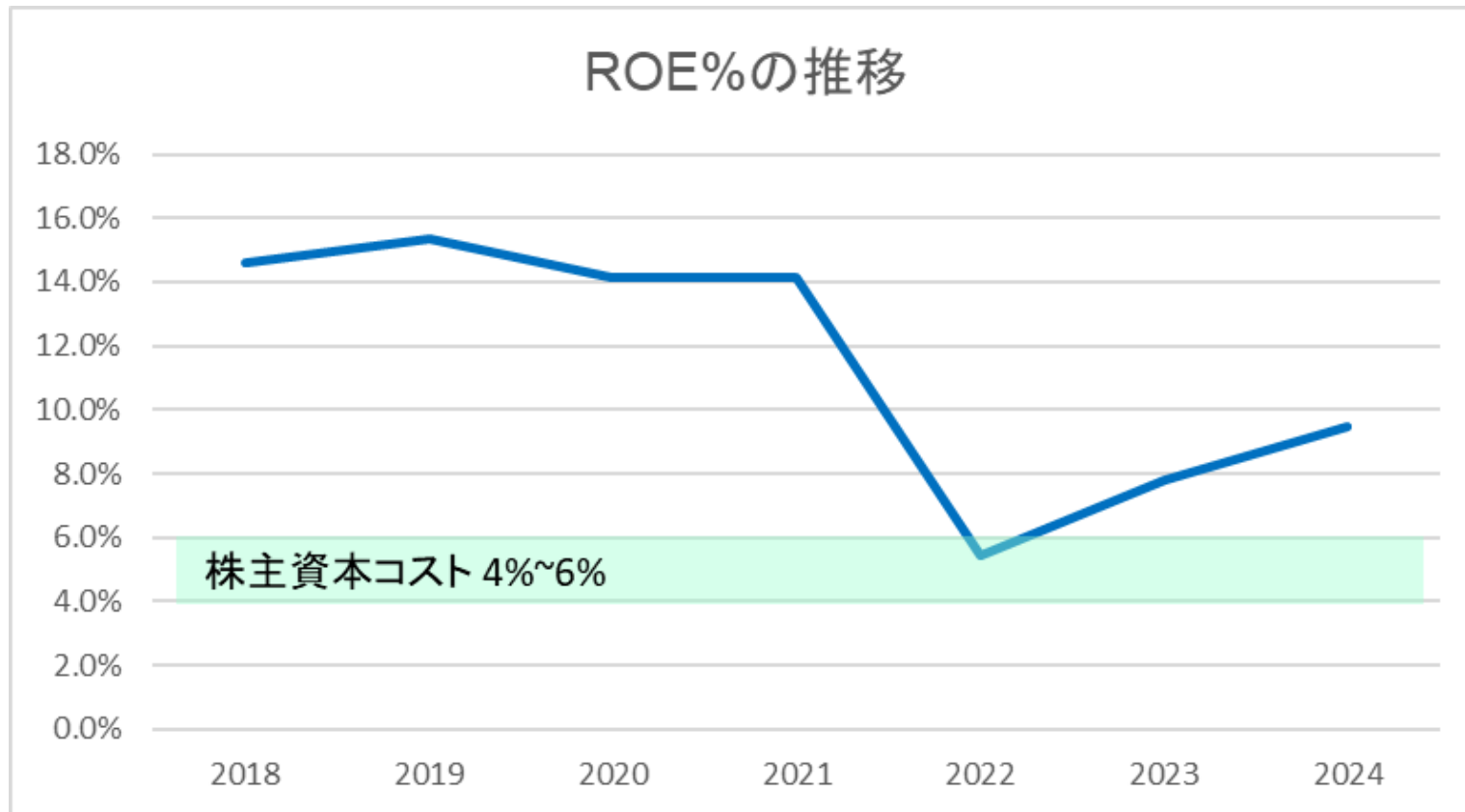
6. 資本コストと今後の見通し

今後も資本コストを意識した経営を続け、長期的に株主価値を向上させることを目指します。引き続き、透明性の高い開示を行ってまいります。

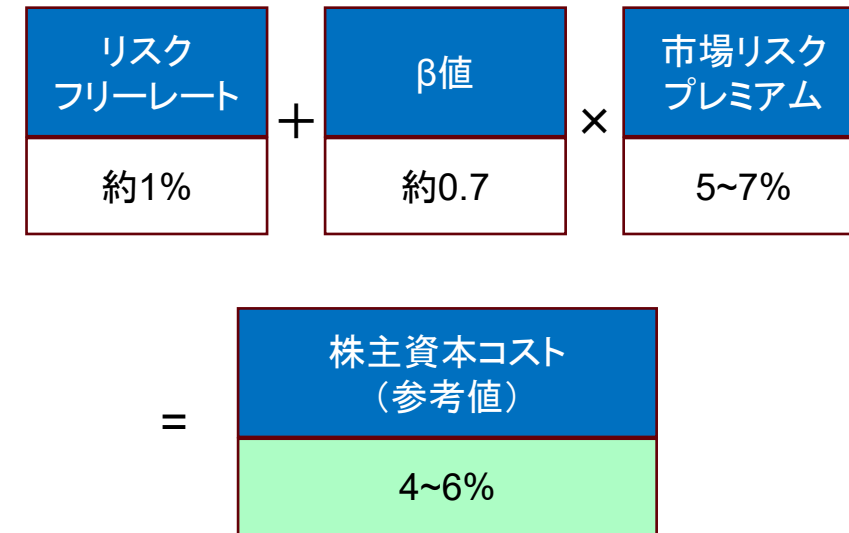
資本コストと株価を意識した経営について – 現状分析(1)

(1) 資本収益性

ROEはCAPMモデルを使用した資本コストを概ね上回って推移
(2018年以降の平均は11.6%)



当社の株主資本コスト(参考値)の
推定方法について



資本コスト参考値としてCAPMモデルを使用

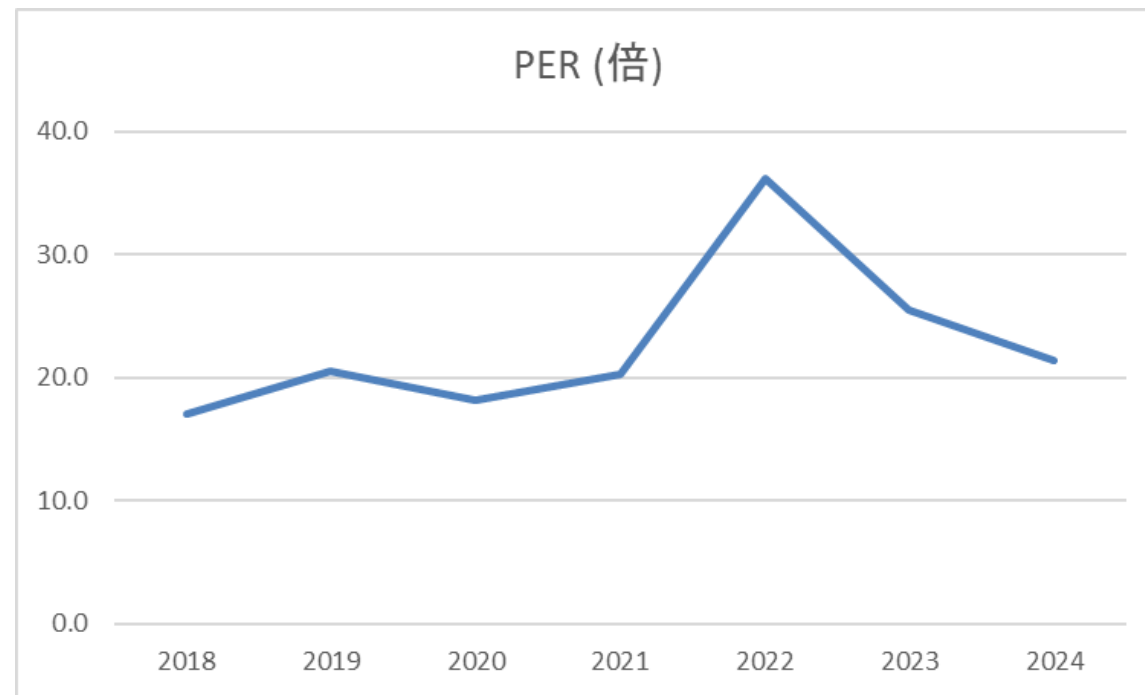
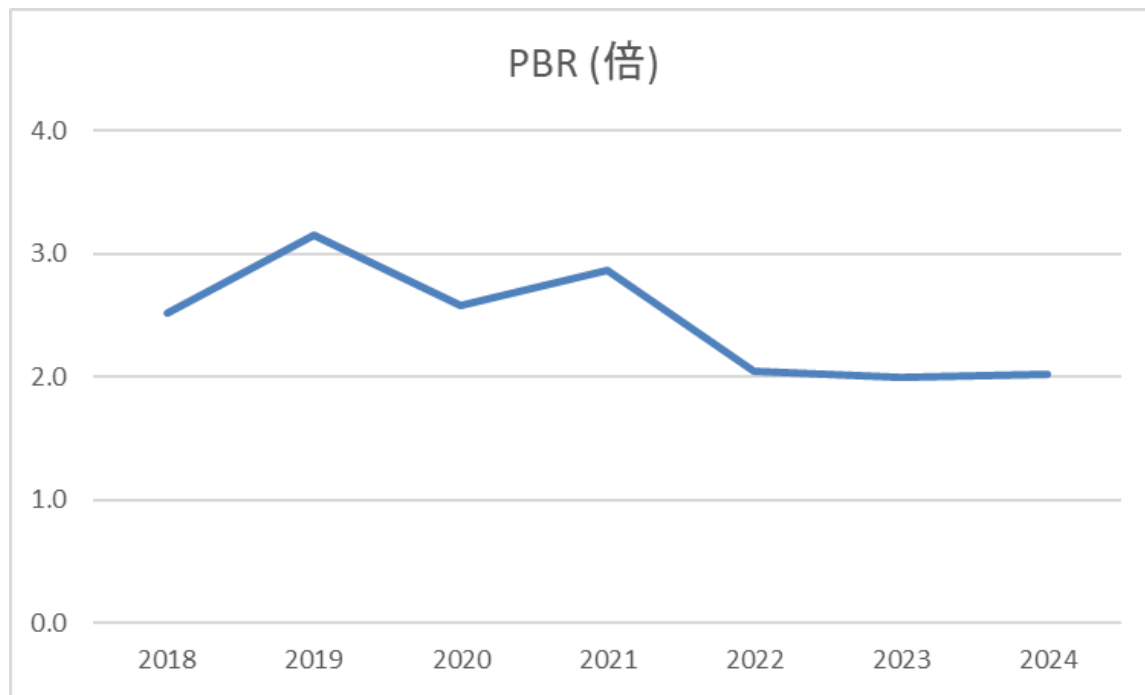
- リスクフリーレート: 10年物国債利回りを参照
- β値: 市場全体の動きに対する個別銘柄の感応度
- 市場リスクプレミアム: 証券市場で水準とされる平均値

資本コストと株価を意識した経営について – 現状分析(2)

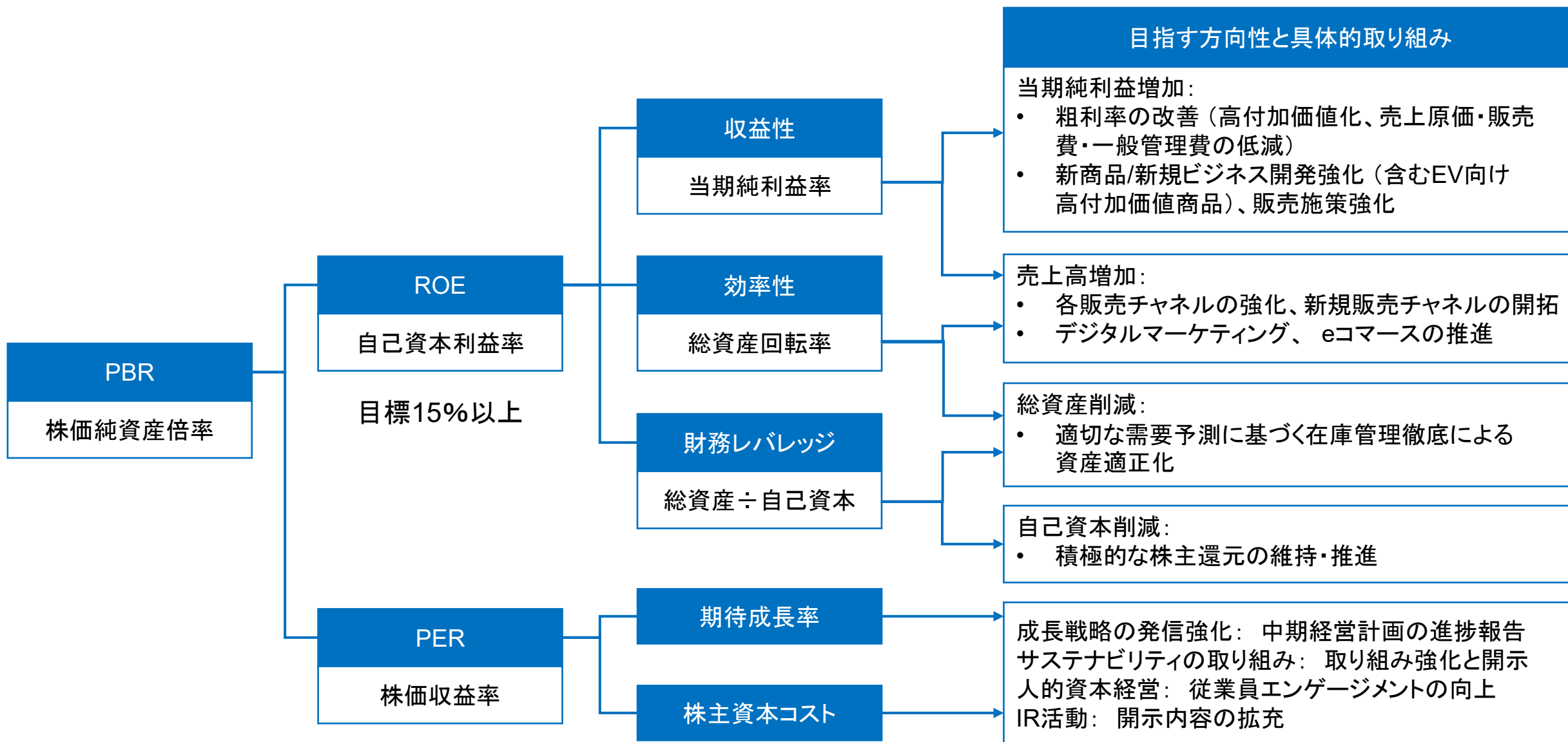
(2) 市場評価

PBRは新型コロナ前までは戻っていないものの2.0倍以上を維持しており、市場から一定の評価を受けている。

PERは2018年以降の平均で22.7倍、コロナ後の急速な資材上昇の中でも更なる収益回復と株価上昇を期待されている。



資本コストと株価を意識した経営について – 具体的取り組み



財務指標

現中期5ヵ年計画は、2022年度から2026年度までを計画期間としております。

急速に変化する市場環境の中においても当社の強みを生かしながら長期的な信頼と価値を築きつつ、新たなカテゴリーへの挑戦も含めて事業ポートフォリオを拡大・再構築することにより収益基盤の更なる強化を目指します。また、持続可能で豊かな社会の実現に貢献するためにSDGsで示された社会課題解決に向けての取り組みからもたらされる既存の枠を超えた事業機会の創出や事業成長により、持続的に企業価値を向上し、更なる飛躍に向けての礎を築いていきます。

達成すべき数値目標として、2026年度における売上高12,000百万円、経常利益2,450百万円、ROE(株主資本利益率)15%を掲げました。この目標を達成するために、安全かつ活気のある職場環境を社員に提供し、サステイナブル(持続可能)であり、かつマテリアル(大規模)なビジネスを実現することで、ベストマーケターとして業界をリードする利益を株主に提供します。

これまでの売上高および経常利益という指標に加え、ROEを財務指標として採用したことで、資本効率を意識した経営をさらに推進し、株主価値の向上を目指してまいります。この新たな指標を通じて、当社は資本効率を高め、株主にさらなる価値を提供する経営を実践してまいります。また、競争力と成長の持続性を強化することで、株主の信頼に応える体制を築いていきます。

	2024年度（実績）	2026年度（目標）
売上高	13,652百万円	12,000百万円
経常利益	1,412百万円	2,450百万円
ROE	9.3%	15%以上

株主還元

現配当方針を基本的に継続

- 株主への利益還元を積極的に行う
- フリー・キャッシュ・フローを基本に税引後利益を目安に配当として還元する